



■～なぜ帝王切開？～

“帝王”の名の下に

帝王切開は、はるか昔からおこなわれてきたと考えられています。ギリシア神話では、太陽の神アポロンが自分の息子のアスクレピオスを母親のお腹を切って取り出したという話があります(ちなみに、このアスクレピオスは医療の神様です)。また、古代インドの神、ブラフマー(梵天)も母親のおへそから生まれたと言われていました。歴史に記録された最初の帝王切開は、1610年4月21日にドイツでおこなわれたものです。我が国では、1852年(嘉永5年)に伊古田純道がおこなった帝王切開が最初のものと言われています。



では、なぜ“帝王”切開と言われるようになったのでしょうか？帝王切開は、ドイツ語ではKaiserschnitt、英語ではcaesarean sectionと言います。よく言われるのは、ジュリアス・シーザー(Julius Caesar)が帝王切開で生まれてきたからという説です。しかし、この説は間違いのようです。なぜなら、シーザーの生まれた紀元前100年頃の帝王切開は、亡くなった母親から子どもを取り出す手術でした。ところが、シーザーの母親はシーザーを生んだ後も生きていました。その証拠として他国への遠征中に母親に宛てた手紙も見つかっています。よって、シーザーのお母さんは帝王切開を受けていないと考えた方が自然です。また、手術中の王座を占めるから、という産婦人科医にとってはドキドキしてしまうような説もありますが、これも正しくないようです。



最も有力な説は、シーザーよりさらに昔の紀元前8世紀、王制ローマのヌマ・ポンピリウス帝の治世で決められた、妊娠末期で亡くなった母親からは胎児を取り出さなくてはいけないという“王様の命令”に由来するという説です。この命令が引き継がれていくうちに、“王様の命令”が“シーザーの命令”(lex caesarea)に変化し、さらには帝王切開という言葉になったというのです。もうひとつ有力な説として、ラテン語で“切る”と言う意味の言葉“caedere”という言葉が、“caesareus”(皇帝)に変化したという意見もあります。

産科医の立場としては“手術の王様”説を推したいところですが、残念ながらそうではないようです。

参考文献

真柄正直. 産科手術改訂第3版. 1965年

Harold Speert. Obstetrics and Gynecology: A history and iconography. 1994

担当: 第一産科部長 三宅 秀彦